

新たな墨田区立学校適正配置等実施計画の見直し
～子どもたちの教育環境を充実させるために～

平成 25 年 9 月

墨田区教育委員会

目 次

I	墨田区における区立学校適正配置の取り組み	1
II	「新たな墨田区立学校適正配置等実施計画」の見直し	1
III	実施計画の現状と検証	2
1	統廃合計画の進捗状況	2
2	通学区域変更計画の進捗状況	3
3	実施計画と現在の学校規模の比較	4
IV	統廃合計画	5
1	統廃合計画の一部実施見送り	5
2	実施見送りとする理由	5
V	通学区域	9
1	通学区域計画の見直し	9
2	通学区域の変更図（＊小学校）	10～11
	〃（＊中学校）	12～13
3	ブロック化	14
VI	今後の適正配置等に係る区の対応について	15

資料

「新たな墨田区立学校適正配置等実施計画」の中間見直しの概要	16～17
小学校・中学校通学区域（実施計画見直し後）	18

I 墨田区における区立学校適正配置の取り組み

墨田区における区立学校適正配置は、児童・生徒数の減少に伴う学校の小規模化により学習、生活指導、学校運営など、指導や組織面全般にわたって問題が生じてきたことから、より良い教育環境を整備し充実した学校教育を実現するため、平成9年に「墨田区立学校適正配置実施計画」を策定し、平成11年度から平成17年度にかけて統廃合を行ってきました。

しかしながら児童・生徒数はさらに減少し、学校の小規模化が進んできたため、平成18年2月に新たな墨田区立学校の適正配置等についての答申を受け、第一吾嬬小学校と立花小学校を緊急統合して平成20年4月に立花吾嬬の森小学校を開校しました。

また、この答申に基づき平成20年3月に、小規模化の影響による諸問題の解決や児童・生徒により良い教育環境を提供することを目的とした10か年にわたる長期計画として「新たな区立学校適正配置等実施計画（計画期間 平成20～29年度）」を策定しました。この計画に基づき、梅若小学校と堤小学校を統合し平成23年4月に梅若小学校を開校、向島中学校と鐘淵中学校を統合し平成25年4月に桜堤中学校を開校、平成26年4月には吾嬬第一中学校と立花中学校を統合した吾嬬立花中学校の開校を予定して、現在その準備を進めているところです。

II 「新たな墨田区立学校適正配置等実施計画」の見直し

「新たな墨田区立学校適正配置等実施計画（以下「実施計画」という。）」の計画期間は、平成20年度から平成29年度の10年間です。また、計画の性格として、児童・生徒数の推移や、少人数学級の導入など義務教育に係る国や東京都の動向などに留意し、必要に応じて適切な修正を行うこととしています。

区内の最近の動向として、人口の増加に伴う児童・生徒数の増加、35人学級等少人数学級への編成基準の改定、区内開発等による環境変化など、区立小・中学校の児童・生徒をめぐる教育環境は、急激に大きく変化してきています。また、平成23年度には入学率の増加や集合住宅の建設等地域開発の状況変化を踏まえ、統合計画の一部繰延べをしています。こうしたことから実施計画の見直しを行うこととしました。

Ⅲ 実施計画の現状と検証

1 統廃合計画の進捗状況（平成 25 年 8 月現在）

ブロック	学校名	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
A	梅若小学校 堤小学校	← 統合準備 →			23 年 4 月統合 梅若小学校開校						
A	向島中学校 鐘淵中学校	← 統合準備 →			25 年 4 月統合 桜堤中学校開校						
C	吾嬬第一中学校 立花中学校				← 統合準備 →			26 年 4 月統合 吾嬬立花中学校開校予定			
B	吾嬬第二中学校 寺島中学校				← 繰延へ →						
C	中川小学校 東吾嬬小学校				← 繰延へ →						
H	竪川中学校 錦糸中学校							← 繰延へ →			29 年 4 月 統合予定

※ ← → ・ ← → 計画策定時の統廃合計画

（1）Aブロック 梅若小学校・堤小学校の統合

梅若小学校と堤小学校は、計画どおり平成 23 年 4 月に統合し、新校「梅若小学校」が開校しました。この統合により小規模化は解消できました。

統合前		＼年度	20	21	22
梅若小学校	児童数		260	262	263
	学級数		11	11	11
堤小学校	児童数		123	110	97
	学級数		6	6	6

統合後		＼年度	23
梅若小学校	児童数		322
	学級数		11

各年 5 月 1 日現在

（2）Aブロック 向島中学校・鐘淵中学校の統合

向島中学校と鐘淵中学校は、実施計画では平成 23 年 4 月に統合の予定でしたが、堤小学校跡地に校舎を新築するため平成 25 年 4 月に統合し、新校「桜堤中学校」が開校しました。この統合により小規模化は解消できました。

統合前		＼年度	22	23	24
向島中学校	生徒数		270	315	352
	学級数		8	9	11
鐘淵中学校	生徒数		194	176	138
	学級数		6	6	5

統合後		＼年度	25
桜堤中学校	生徒数		419
	学級数		13

各年 5 月 1 日現在

(3) Cブロック 吾孺第一中学校・立花中学校の統合

吾孺第一中学校と立花中学校の統合については、計画どおり平成 26 年 4 月に統合を実施します。この統合により小規模化は解消できる見込みです。

統合前		＼年度	23	24	25
吾孺第一中学校	生徒数		110	114	105
	学級数		4	4	4
立花中学校	生徒数		265	262	301
	学級数		8	8	9

統合予定		＼年度	26
吾孺立花中学校	生徒数		397
	学級数		12

生徒・学級数は、吾一中・立花中の過去 3 年間の入学率を乗じた推計数

(4) Bブロック 吾孺第二中学校・寺島中学校、Cブロック 中川小学校・東吾孺小学校の統合

吾孺第二中学校と寺島中学校、中川小学校と東吾孺小学校の統合については、実施計画は平成 26 年度の統合としていました。しかし、集合住宅の建設等地域開発による児童・生徒数の増加及び 35 人学級等少人数学級への編成基準の改定など教育環境が大きく変化していることから、平成 23 年度に統合を当面繰り延べすることとし、今後の動向を見極めながら改めて統合時期等について検討することとしました。

2 通学区域変更計画の進捗状況

ブロック	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
Aブロック (小学校)				新入生 から適応	→						
Aブロック (中学校)				新入生 から適応		新入生 から適応	変更				
D・E ブロック				新入生 から適応		新入生 から適応	変更				
B・C ブロック							新入生 から適応				
F・G・H ブロック										新入生 から適応	→

※ブロックによっては一部実施時期が異なる地域があります。

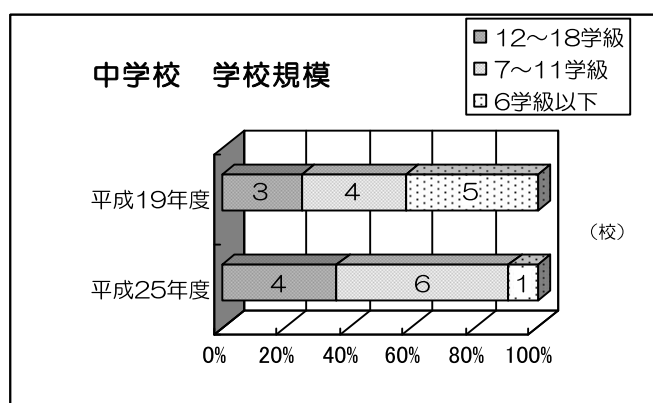
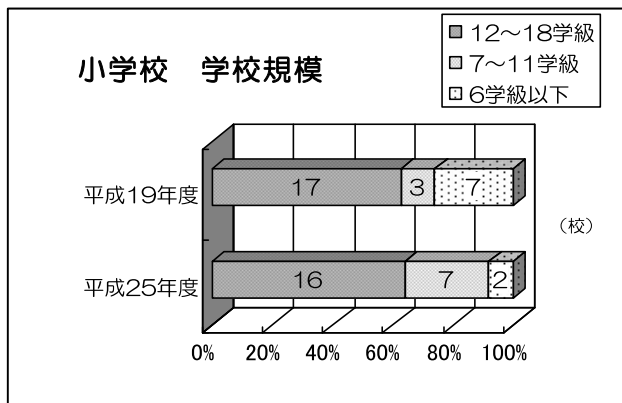
※ → 計画策定時の通学区域変更計画

Aブロック中学校及びD・Eブロックの通学区域の変更については、向島中学校と鐘淵中学校の統合が平成 25 年 4 月に変更になったことに合わせて、平成 25 年 4 月から実施しました。

3 実施計画と現在の学校規模の比較

実施計画策定時と現在の学校規模を比較すると、6学級以下の小規模校が減少しており、小規模化の解消が進んでいます。

平成25年度現在の6学級以下の学校は、中和小学校6学級、第四吾嬬小学校6学級、吾嬬第一中学校4学級です。なお、吾嬬第一中学校は、平成26年4月に統合予定のため、中学校については6学級以下の小規模校はなくなる予定です。



Ⅳ 統廃合計画

1 統廃合計画の一部実施見送り

学校の統廃合計画については、すでに繰延べとしているBブロック中学校（吾婦第二中学校・寺島中学校）及びCブロック小学校（中川小学校・東吾婦小学校）と、今後着手を予定しているHブロック中学校（豎川中学校・錦糸中学校）の統廃合について、本計画が終了する平成29年度末まで実施を見送ることとします。

ブロック	学校名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
B	吾婦第二中学校 寺島中学校	繰延べ			実施 見送り			
C	中川小学校 東吾婦小学校	繰延べ			実施 見送り			
H	豎川中学校 錦糸中学校				実施 見送り			

※ 実施計画策定時の統廃合計画

2 実施見送りとする理由

（1）共通の理由

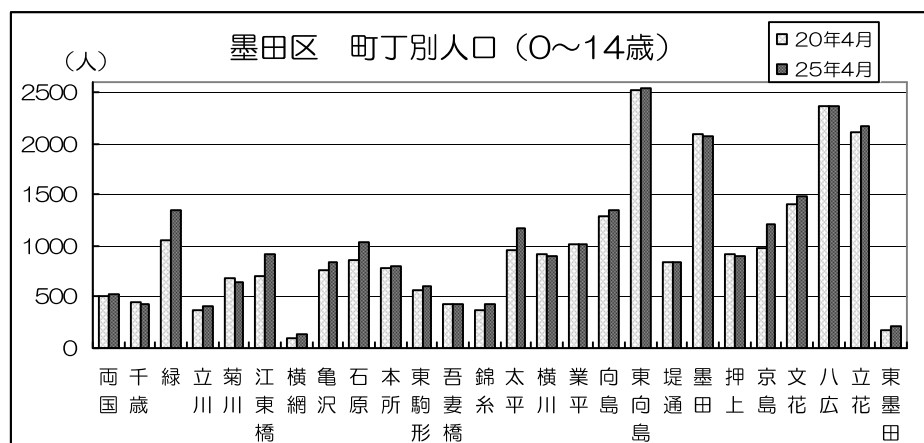
①年少人口の増加

実施計画策定時と比較して区内開発等に係る人口の増加に伴う児童・生徒数の増加があります。公的な人口予測では平成30年前後まで年少人口が増加傾向にあります。

* 墨田区住民基本台帳上の人口（0歳から14歳）※外国人含む

実施計画の策定時と比較し、区全体で800人程度増加しています。

	0歳～4歳	5歳～9歳	10歳～14歳	総数(人)
平成20年4月1日現在	9,127	8,648	8,180	25,955
平成25年4月1日現在	9,706	8,469	8,618	26,793



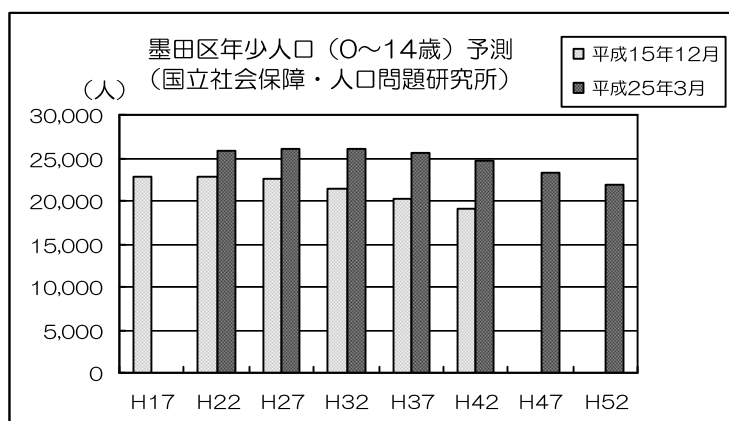
＊年少人口（０歳から１４歳）の推計

平成 25 年 3 月の年少人口予測は、平成 30 年頃をピークとする増加傾向の予測であり、平成 22 年から人口減に転じると予測していた実施計画と大幅な差異が生じています。

日本の地域別将来推計年少人口（国立社会保障・人口問題研究所）予測の比較 (人)

	H17 年 (2005)	H22 年 (2010)	H27 年 (2015)	H32 年 (2020)	H37 年 (2025)	H42 年 (2030)	H47 年 (2035)	H52 年 (2040)
平成 15 年 12 月	22,879	22,893	22,504	21,422	20,184	19,178	—	—
平成 25 年 3 月	—	25,874	26,077	25,982	25,583	24,563	23,334	21,950

※H25.3 年少人口 / H15.12 年少人口 +15.9% +21.3% +26.7%



② 35人学級等少人数学級への編成基準の改定

東京都の学級編制基準の改正に伴い、墨田区においても小学校 1 学年、2 学年及び中学校 1 学年については 35 人学級の編制としています。国においては、少人数学級の推進の効果等について検証を行っています。

③ 区内開発等による環境変化

区内の大規模開発やファミリー向けマンション建設の増加などにより、一部地域において学校規模が大きく変わることが予測されます。

(2) 地区別の理由

全体的理由に加え、各ブロックの個別的理由により、統合後の学校規模が適正規模を超えることが予測されます。

① Bブロック中学校（吾嬬第二中学校・寺島中学校）の統合

寺島中学校の入学率が平成 24 年度から上昇しています。このため、吾嬬第二中学校と寺島中学校の過去 3 年の平均入学率を乗じた場合の統合後の学校規模は、1 学年 203～240 人、1 学年 6～7 学級、全校で 20～21 学級になると推計されます。

＊住民基本台帳上の 6 歳から 11 歳の人数（平成 25 年 4 月 1 日現在）

学校名	11 歳	10 歳	9 歳	8 歳	7 歳	6 歳
吾嬬第二中学校	140	102	122	120	121	127
寺島中学校	108	121	120	102	89	116
計	248	223	242	222	210	243

入学率×96.7%	240	216	234	215	203	235
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※学級数は 35 人学級で計算

※入学率は吾嬬第二中学校と寺島中学校の過去 3 年（H23～25）の平均

② Cブロック小学校（中川小学校・東吾嬬小学校）の統合

中川小学校周辺のマンション建設により、児童数の増加が見込まれます。このため、中川小学校と東吾嬬小学校の住民基本台帳上の人数に集合住宅の児童出現率から算出される児童数を加えた統合後の学校規模は、1 学年 92～108 人、1 学年 3～4 学級、全校で 18～19 学級になると推計されます。適正規模をわずかに上回る推計ですが、今後、学区域内で更なる地域開発等があった場合、18 学級を超える学校規模になる恐れがあります。

＊住民基本台帳上の 0 歳から 6 歳の人数（平成 25 年 4 月 1 日現在）

学校名	6 歳	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	1 歳
中川小学校	46	51	63	47	52	35
東吾嬬小学校	47	39	37	45	40	41
マンション児童数	6	7	8	10	12	16
計	99	97	108	102	104	92

※学級数は 35 人学級で計算

※マンション児童数とは、マンション世帯数に「東京都教育庁 教育人口等推計資料の集合住宅児童・生徒等出現率」を乗じた人数

③ Hブロック中学校（豎川中学校・錦系中学校）の統合

マンション建設等により、Hブロック地域の年少人口が急激に増加しています。このため、豎川中学校と錦系中学校を統合した場合の学校規模は、1 学年 233～266 人、1 学年 7～8 学級、全校で 21～23 学級になると推計されます。

＊住民基本台帳上の 6 歳から 11 歳の人数（平成 25 年 4 月 1 日現在）

学校名	11 歳	10 歳	9 歳	8 歳	7 歳	6 歳
豎川中学校	136	154	154	151	126	167
錦系中学校	209	180	174	178	223	208
計	345	334	328	329	349	375

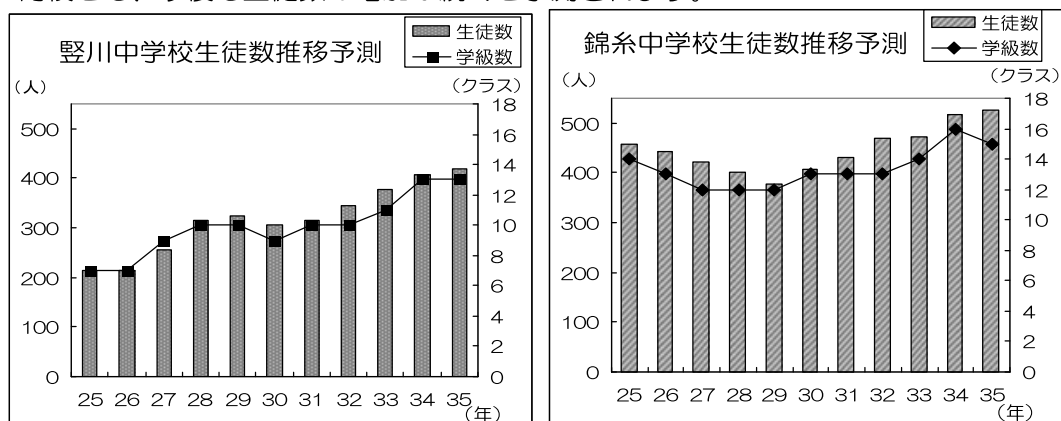
入学率×71.0%	245	237	233	234	248	266
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※学級数は 35 人学級で計算

※入学率は豎川中学校と錦系中学校の過去 3 年（H23～25）の平均

＊豎川中学校と錦系中学校の生徒数推移予測

両校とも、今後も生徒数の増加が続くと予測されます。



※各校の生徒数は、各校通学区域の住民基本台帳人口に豎川中学校と錦系中学校の過去 3 年平均入学率を乗じて得た人数

V 通学区域

1 通学区域計画の見直し

(1) 計画の見送り

平成 29 年度実施予定の F・G・H ブロック（一部を除く）及び平成 26 年度実施予定の B ブロックの八広小学校から第三寺島小学校への通学区域変更については、統廃合計画の実施見送りに合わせ、平成 29 年度末まで見送りとします。

(2) 計画の一部変更

吾妻橋一・二丁目地区の生活圏が区の南部地域を主としていること及び登下校の安全配慮等〔注〕から、平成 26 年 4 月から小梅小学校から横川小学校への区域変更を実施し、本所中学校から墨田中学校への通学区域変更を取りやめます。

〔注〕吾妻橋一・二丁目地区の通学区域については、当初計画策定後の平成 22 年に教育長の諮問機関として設置した「吾妻橋一・二丁目地域の通学区域に関する協議会」の提言を受けて、このたびの中間見直しにあたっての計画変更となった経緯があります。

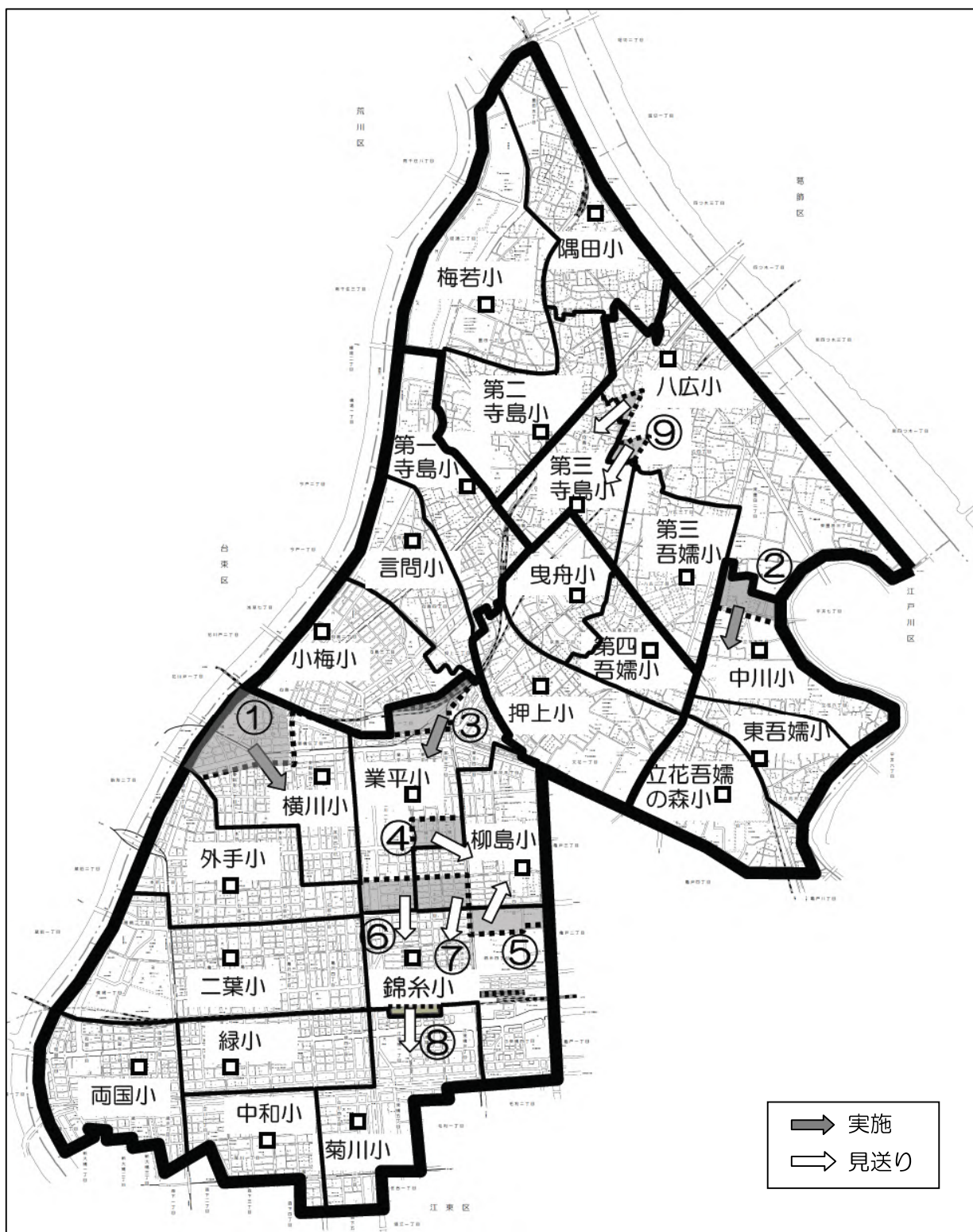
(3) 計画どおり実施

平成 26 年 4 月から実施予定の B・C ブロックの八広小学校から中川小学校、吾嬭第二中学校から吾嬭立花中学校（吾嬭第一中・立花中の統合校）、吾嬭第一中学校から寺島中学校の通学区域変更については、計画どおり吾嬭第一中・立花中の統合を実施することから、通学区域変更も計画どおり実施します。

又、平成 29 年 4 月から実施予定の小梅小学校から業平小学校及び墨田中学校から本所中学校の通学区域変更は町会の区域が複数の学校のまたがっていることを解消するため計画どおり実施します。

2 通学区域の変更図

*小学校



計画を一部変更して実施（26 年 4 月変更）

*見直し後

①	小梅小 ⇒ 横川小	吾妻橋一丁目	全域	横川小
		吾妻橋二丁目	全域	

計画どおり実施（26 年 4 月変更）

*見直し後

②	八広小 ⇒ 中川小	東墨田一丁目	1～2 番、3 番 1～3 号、4 ～9 番（調整区域）	中川小
---	-----------	--------	---------------------------------	-----

計画どおり実施（29 年 4 月変更）

*見直し後

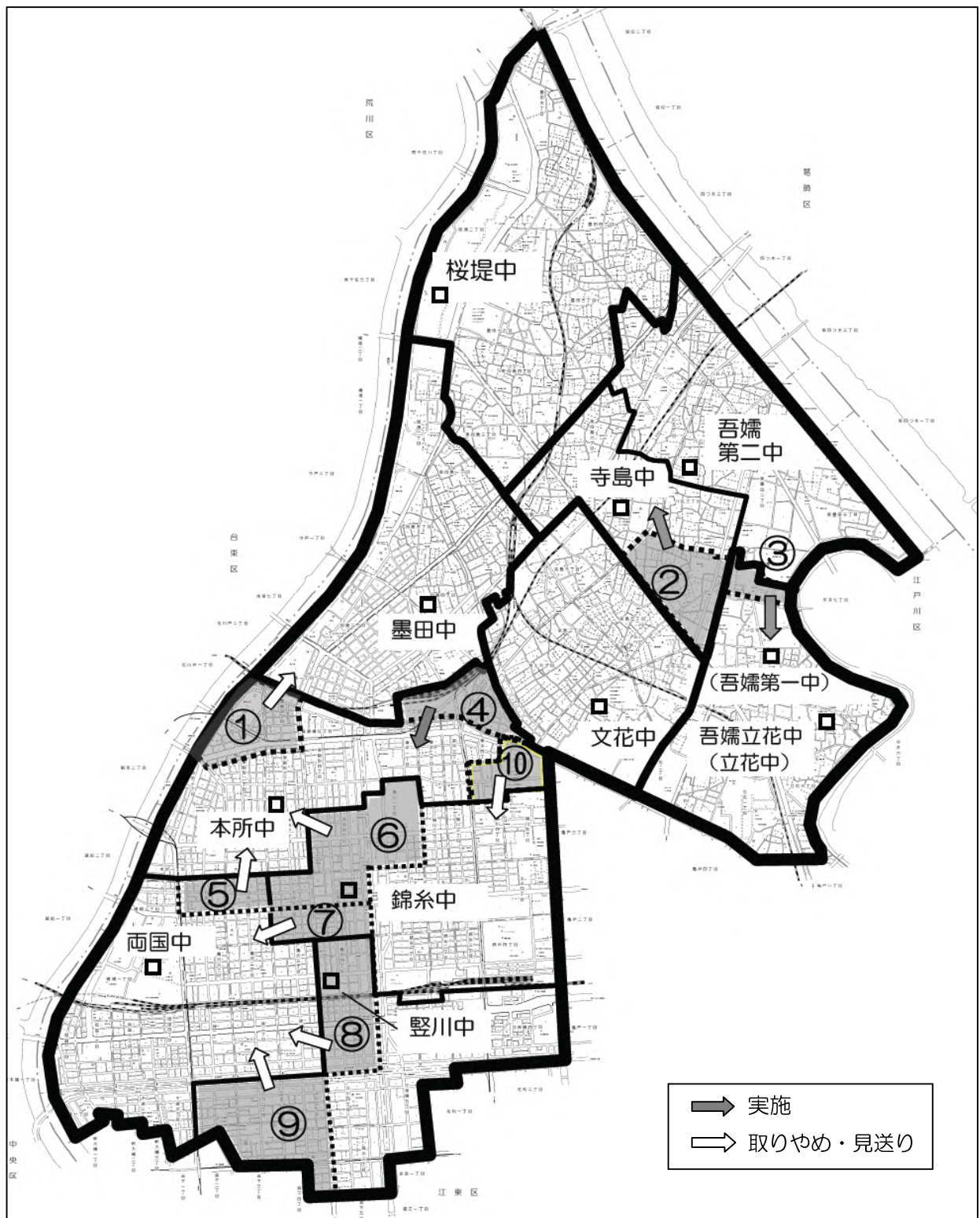
③	小梅小 ⇒ 業平小	押上一丁目	1 番（除 1～71 号）、2～9 番	業平小
---	-----------	-------	---------------------	-----

計画を見送り

*見直し後

④	業平小 ⇒ 柳島小	横川二丁目	13～20 番	業平小
		横川三丁目	11～14 番	
⑤	錦糸小 ⇒ 柳島小	太平四丁目	1～4 番	錦糸小
⑥	業平小 ⇒ 錦糸小	太平一丁目	17～31 番	業平小
⑦	柳島小 ⇒ 錦糸小	太平二丁目	10～19 番	柳島小
		太平三丁目	11～20 番	
⑧	錦糸小 ⇒ 菊川小	江東橋二丁目	19 番	錦糸小
⑨	八広小 ⇒ 第三寺島小	東向島六丁目	45 番、47～48 番	八広小
		八広五丁目	1～6 番	

* 中学校



計画を一部変更して取りやめ（26 年 4 月変更）

*見直し後

①	本所中 ⇒ 墨田中	吾妻橋一丁目	全域	本所中
		吾妻橋二丁目	全域	

計画どおり実施（26 年 4 月変更）

*見直し後

②	吾孺第一中 ⇒ 寺島中	八広二丁目	全域	寺島中
③	吾孺第二中 ⇒ 吾孺立花中	東墨田一丁目	1～2 番、3 番 1～3 号、4～9 番	吾孺立花中

計画どおり実施（29 年 4 月変更）

*見直し後

④	墨田中 ⇒ 本所中	押上一丁目	1 番（除 1～71 号）、2～16 番、20～30 番、36～43 番、48 番	本所中
---	-----------	-------	---	-----

変更計画を見送り

*見直し後

⑤	両国中 ⇒ 本所中	石原一丁目	28～41 番	両国中
		石原二丁目	15～30 番	
⑥	錦糸中 ⇒ 本所中	石原三丁目	19～34 番	錦糸中
		石原四丁目	25～37 番	
		本所四丁目	全域	
⑦	錦糸中 ⇒ 両国中	横川一丁目	全域	錦糸中
		石原三丁目	1～18 番	
⑧	縦川中 ⇒ 両国中	石原四丁目	1～24 番	縦川中
		亀沢四丁目	全域	
⑨	縦川中 ⇒ 両国中	緑四丁目	全域	縦川中
		立川一丁目	全域	
		立川二丁目	全域	
		立川三丁目	全域	
		菊川一丁目	全域	
⑩	本所中 ⇒ 縦川・錦糸中	菊川二丁目	全域	本所中
		業平四丁目	1～8 番	
		業平五丁目	全域	

3 ブロック化

実施計画では、一つの中学校とその学区域の小学校、幼稚園、保育園をブロック化した教育の考え方を打ち出しました。現在の実施計画では、統合を前提に8ブロック構想としていますが、適正配置や学区域変更の見送りに伴い、当面は既存の中学校の学区域を単位として、幼保小中一貫教育を推進していきます。

■幼保小中一貫教育推進ブロック

ブロック中学校	小 学 校
桜堤中学校ブロック	第二寺島小学校・隅田小学校・梅若小学校
吾嬬第二中学校ブロック	八広小学校
寺島中学校ブロック	第三吾嬬小学校・第三寺島小学校
吾嬬立花中学校ブロック	東吾嬬小学校・中川小学校・立花吾嬬の森小学校
墨田中学校ブロック	言問小学校・小梅小学校・第一寺島小学校
文花中学校ブロック	第四吾嬬小学校・曳舟小学校・押上小学校
本所中学校ブロック	外手小学校・業平小学校・横川小学校
両国中学校ブロック	緑小学校・二葉小学校・両国小学校
豊川中学校ブロック	中和小学校・菊川小学校
錦糸中学校ブロック	錦糸小学校・柳島小学校

※区立幼稚園・保育園及び私立保育園については、各ブロックにおいて幼保小中一貫教育推進の取り組みを行っているとともに、私立幼稚園についても、連携・交流が図られるよう情報提供をしています。

Ⅵ 今後の適正配置等に係る区の対応について

0～14 歳までの年少児童数の推計は、計画当初の推計に比べて大きく増加しており、マンション等の開発の件数も当初の予測を大きく超えた状況となっております。こうした傾向が今後もしばらくは続くと考えられ、本計画の期間が終了する平成 29 年度末までに、年少人口は 2 万 6 千人程度まで増加すると予測されます。

また一方で、学級編成については、少人数化によって学級数が増加する傾向にあり、今後の国や東京都の動向を注視していく必要があります。

今回の計画見直しにあたっては、こうした状況から、B ブロック（吾孺第二中学校・寺島中学校）、C ブロック（中川小学校・東吾孺小学校）、H ブロック（豎川中学校・錦糸中学校）の学校統廃合及び一部の通学区域変更について、本計画の期間終了となる平成 29 年度末までの実施見送りを決定いたしました。

しかし、長期的には少子化傾向に変わりがないことから、本計画期間終了後における区立学校の適正配置等については、平成 30 年度以降に、改めて、年少人口の動態、マンションの開発状況、少人数学級化の動向等といった諸要因について調査・分析したうえで、新たな計画を策定すべきかどうかを検討することといたします。

「新たな墨田区立学校適正配置等実施計画」の中間見直しの概要

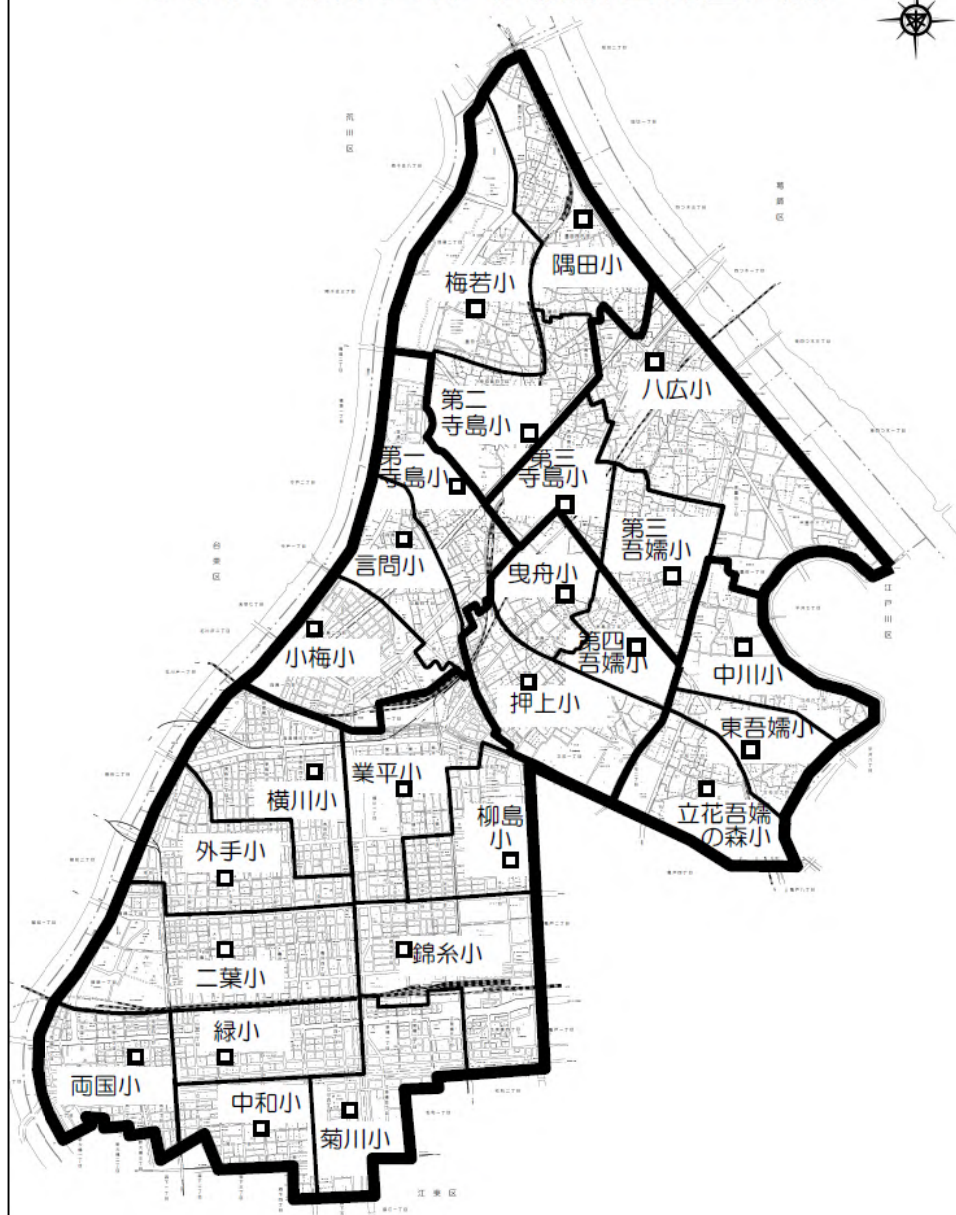
*学校統廃合計画

計 画 の 内 容（平成 25 年度以降）	計 画 見 直 し の 内 容		掲載 ページ
	見 直 し の 方 向	理 由	
平成 26 年 4 月 吾孺第一中学校と立花中学校	当初計画どおり実施	小規模化の解消のため	3
平成 26 年 4 月 吾孺第二中学校と寺島中学校	計画期間終了 （平成 29 年度） まで見送り	年少人口の増加、少人数学級化の動向、集合住宅の開発等の要因により、計画どおり実施すると適正規模（12～18 学級）を超えてしまうことが予測されるため	5～7
平成 26 年 4 月 中川小学校と東吾孺小学校			5～7
平成 29 年 4 月 豎川中学校と錦糸中学校			5～8

*通学区域変更計画

計 画 の 内 容（平成 25 年度以降）	計 画 見 直 し の 内 容		掲載 ページ
	見 直 し の 方 向	理 由	
平成 26 年 4 月変更 小梅小学校から横川小学校	当初計画を変更して実施	地区の生活圏が区の南部を主としていること及び登下校の安全配慮のため	9（2） 10・11
平成 26 年 4 月変更 八広小学校から中川小学校 吾嬬第二中学校から吾嬬立花中学校 吾嬬第一中学校から寺島中学校	当初計画どおり実施	計画どおり吾嬬第一中学校と立花中学校の統合を実施するため	9（3） 10・11 12・13
平成 29 年 4 月変更 小梅小学校から業平小学校 墨田中学校から本所中学校	当初計画どおり実施	町会の区域が複数の学校にまたがっていることの解消及び小学校からの進学先中学校が複数に分かれている状況を改善するため	9（3） 10・11 12・13
平成 29 年 4 月変更 本所中学校から墨田中学校	当初計画を変更して 取りやめ	地区の生活圏が区の南部を主としているため	9（2） 12・13
平成 26 年 4 月変更 八広小学校から第三寺島小学校	計画期間終了 （平成 29 年度） まで見送り	吾嬬第二中学校と寺島中学校の統廃合計画を見送りすることにより、通学区域を再編することができないため	9（1） 10・11
平成 29 年 4 月変更 業平小学校から柳島小学校 錦糸小学校から柳島小学校 業平小学校から錦糸小学校 柳島小学校から錦糸小学校 錦糸小学校から菊川小学校 両国中学校から本所中学校 錦糸中学校から本所中学校 錦糸中学校から両国中学校 豎川中学校から両国中学校 本所中学校から豎川・錦糸中学校	計画期間終了 （平成 29 年度） まで見送り	豎川中学校と錦糸中学校の統廃合計画を見送りすることにより、通学区域を再編することができないため	9（1） 10・11 12・13

小学校 通学区域（実施計画見直し後）



中学校 通学区域（実施計画見直し後）

